

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|------------|----|------------|
| ○事業所名 | シャイン | | |
| ○保護者評価実施期間 | R8年 3月 2日 | | R8年 3月 14日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 17 | (回答者数) 11 |
| ○従業者評価実施期間 | R8年 3月 16日 | | R8年 3月 28日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 8 | (回答者数) 8 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | R8年 3月 30日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|--|---|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> サービス提供時間が他事業者より長いことにより、利用者の需要が多い。 職員の人員配置を充実させている。 現場職員→子ども3人を1人で対応できるスキルを身に付けるように努めている 職員間のコミュニケーションを図り、風通しの良い職場環境を作っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 体験学習を通して、少しの成功体験を積み上げていくことを実践している。 入職時2日間のわたり、社長研修を実施し、法人の方向性や考え方、また障害についての研修を実践している。 | <ul style="list-style-type: none"> 日常動作訓練は勿論、運動療育や学習面でも強化を図っている。 専門的な知識と技術を高め、スキルアップしていけるように体制を整えている。 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> 利用者のアセスメント、半年に一度のモニタリングをしっかりと行い、個別支援計画書に関する話し合いを参加できる形で作り、個別支援計画書を作成している。 面談をして、個別支援計画書の説明を行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 家庭に対して子供の様子を見てもらう為に、見学の機会を作っている。 個別支援計画書の振り返りと個別支援計画の了承をしっかりと対面で伝えている。 | <ul style="list-style-type: none"> 発達支援、家族支援、移行支援、地域連携の項目に沿って5領域の項目に沿って、具体的な支援計画の作成に取り組んでいる。 |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> 家族に対して子供の様子をしっかりと伝え、必要な情報提供を行っている。 電話相談などでは、家族の不安や困りごとに寄り添っている体制を整えている。 | <ul style="list-style-type: none"> 管理者、児童発達支援管理責任者と現場で家族との話は共有し、現場職員の気づきを尊重して保護者対応に向けて体制作りをしている。 送迎でその日の様子を短時間ではあるが伝えるようにしている。 | <ul style="list-style-type: none"> 今後も現場職員と管理者、児童発達支援管理責任者がしっかりとコミュニケーションを取り、全職員が支援に全力を注げるような態勢を整えていく。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|--|---|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> カリキュラム通り事が運ばないことが多い。 PDCAを回すことが出来ない。 こども園や保育所、幼稚園と交流が出来ていない。 | <ul style="list-style-type: none"> 日々の業務が多忙すぎて、新しいことへの取り組みなどを実行することが出来ていない。 新一年生の入所時はそちらに職員を多く割くケースがあり、それ以外の子どもたちの療育がどうしても後回しになってしまうことが多い。 | <ul style="list-style-type: none"> 社内研修等を通して、意思疎通の徹底化を図る。 市役所などの力を借りて行政との取り組みも検討している。 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> 家庭とのペアレントトレーニングや研修会が出来ていない。 保護者会など家庭との交流できる場を作ることが出来ていない。 | <ul style="list-style-type: none"> 現時点では子供たちの療育をしっかりと行う事に全力を注いでいるため、マンパワーが全て取られている。 保護者間での交流を実現していく必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ペアレントトレーニングができる人材を確保していきたい。 安全に保護者間交流ができる体制作りを考えていきたい。 |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> 地域交流ナド地域に開けた事業所運営が出来ていない。 第三者委員会など外部機関を運営に取り入れることが出来ていない。 | <ul style="list-style-type: none"> 父木との交流では、どのように進めていけばいいか方法を考えなければならない。 外部機関とのつながりが乏しい。 | <ul style="list-style-type: none"> 市や公的団体などの助言を聞くなどとりくにをしていきたい。 |